

参加報告/平成29年度 九州地区総合技術研究会 in OKINAWA

石井, 大輔
九州大学応用力学研究所

<https://hdl.handle.net/2324/1956642>

出版情報：九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 19, pp.64-64, 2018-10. Research
Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

参加報告／平成 29 年度 九州地区総合技術研究会 in OKINAWA

石井 大輔

1. 出張・研修等の名称

平成 29 年度 九州地区総合技術研究会 in OKINAWA

2. 開催場所・開催期間

開催場所：名護市民会館（沖縄県名護市）

開催期間：2018 年 3 月 6 日（火）～ 2018 年 3 月 8 日（木）

3. 出張・研修等への参加目的

ワークショップのパネリストという立場から、テーマに即した発言機会と有意な知見等を得るとともに、議論の深化やテーマ分野の技術展開に努めるため。

4. 出張・研修等の概要

沖縄工業高等専門学校主催のもと、平成 29 年度 九州地区総合技術研究会が名護市民会館（沖縄県名護市）で 3 月 6 日から 8 日までの三日間にわたって開催された。本研究会は、おもに九州地区の大学・高専の技術者が日常業務で携わっている広範囲な技術的教育研究支援活動について発表する機会であり、参加者の技術交流と技術向上を図ることを目的に、2 年に一度開催されている。今回は九州地区を中心に 150 名弱の技術職員が集った。応力研技術室からは 3 名が参加し、うち 2 名はポスター発表（口頭発表は実施なし）で参加した。自身は二日目のワークショップ（自然・環境系）のパネリストとして参加した。

二日目の内容に的を絞ると、午前中からポスターセッションとワークショップが行われた。ワークショップでは、「高専・大学における技術の未来」というテーマに沿って事前に行われた技術職員へのアンケート結果とパネリストからの話題提供をもとに、パネルディスカッションおよび参加者を交えた全体討論が行われた。

5. 所感

今回主催者側から、自然・環境系ワークショップのパネリストの打診があった際は大役の務めを憂慮したが、自身の成長に寄与するものとして積極的に引き受けた。結果この判断は正しく、実際に終えた感想としては、やはり引き受けて正解だった。多少の下準備はしてきたが、殆ど事前打合せ無しの生放送感覚でモデレータからの問いに対応する場面が頻発した。ただその際も、これまでの知識や経験等をもとにした発言や見解を自然に引き出すことができた。現在進行形で自身が成長していることを実感しつつ、他のパネリストの見識や実績等に驚嘆することもあり良い刺激を受けた。優れた識者との新たな繋がり形成は、非常に意義深い。

6. 特記事項

「高専・大学における技術の未来」自然・環境系ワークショップ パネリスト